

# 令和6年度 南の星小学校 向上プラン



自己評価

C(評価)

A(改善)

説明責任

P(計画)

D(実施)

学び合う子

【児童の状況】  
・目新しいことには大変意欲的に取り組む。持続が難しい子が目立つ。  
語彙が少なく自分の思いを表現できない子がいる。  
【達成目標】  
◎「授業の内容がよく分かる」(4段階評価)と答える子どもが8割以上。  
◎学年相当(単元末のテスト)で学級平均8割以上の得点。  
◎相手の思いや考えを理解しようと聴いたり、自分の思いや考えを適切な言葉で話したりすることができる。

【目標達成に向けての取り組み】  
・「子供たちの心が動く」単元構想の工夫を図る。  
・語彙力や読みの力を高めるために、低学年を中心にMIMを取り入れた学習を行う。  
・一人一人が安心できるような温かな学級風土づくりに努める。心を耕す道徳教育の充実を図る。  
・話し合い活動を意図的、効果的に設定し、自分の思いや考えを適切な言葉で伝えることができるようにする。

【今年度の評価】  
・「授業の内容がよく分かる」(4段階評価)と答える子どもが78%となり、また学年相当のテストで学級平均8割以下となったため、目標に達成することができなかった。  
・相手の思いや考えを理解しようと聴いたり、自分の思いや考えを適切な言葉で話したりすることができる子供に個人差があった。

【改善策】  
・多様な教育的ニーズに応えるため、個別指導や支援の充実を行う。それと同時に、それに適した達成目標の検討を行う。  
・話し合い活動をより効果的にできるような場面を設定し、自分の思いや考えを、子供たちが話しやすい環境をつくる。

素直な子(いじめ対策)

【児童の状況】  
・「学校生活が楽しい」と答える子は80%くらいである。気持ちのよい挨拶ができる子が多い。  
・その場に応じていない言葉遣いをしたり、友達に気持ちを上手に伝えられなかったりして、トラブルになることがある。  
【達成目標】(児童自己評価)  
◎「気持ちの良い挨拶が進んでできる」80%以上  
◎「学校生活のルールやマナーを守っている」80%以上  
◎「学校が好きだ、楽しいと思う」80%以上

【目標達成に向けての取り組み】  
・あいさつや落ち着いた生活について、各クラスで子供たちと話し合いめあてを設定する。  
・「ふわふわ言葉」「ちくちく言葉」等、言葉づかいについて発達段階ごとに指導する。  
・「かがやき賞」や帰りの会でお互いを認め合う活動を設定する。  
・いじめ対策委員会で全職員のいじめに対する共通認識を高める。

【今年度の評価】  
・あいさつや落ち着いた生活について、各クラスで子供たちと話し合い、めあてを設定した。  
・あいさつについて 保護者90% 児童82% 職員90%  
・ルールやマナーについて 保87% 児81% 職100%  
・学校が楽しい 保88% 児86% 職95%  
・児童を認める場はこれからも続けたい。  
・H6 いじめ件数7件 子供たちが互いを思いやる気持ちを引き続き育んでいく。

【改善策】  
・あいさつに関して1学期、2学期に1度、委員会を通してR6年のような取り組みを行う。  
・「かがやき賞」受賞者一覧を作成し、同じ児童が連続してもらわないように配慮する。(過去2年一覧)  
・いじめに対する職員の共通理解を引き続き図っていく。

負けない子

【児童の状況】  
・新体力テストでは、全学年96項目中40項目(42%)が全国平均を上回った。R6(42%)R5(42%)R4(34%)  
・学校管理下における事故発生数(事故報告書件数)→R5(46),R4(34),R3(25)  
【達成目標】  
◎新体力テストで、項目の半数以上を全国の平均記録を上回る。  
◎校内廊下歩行などの指導を充実し。事故発生数を減少させる。

【目標達成に向けての取り組み】  
・体力アップコンテストや持久走・縄跳びカードを通して運動に親しみやすい環境を作り、運動の日常化を図る。新体力テストを効果的に使い、目標記録をもってテストに臨ませる。  
・「自分の命は自分で守る」という安全意識が高まるように、子どもの発達段階を踏まえながら、日常生活の中で、体験的・具体的指導を行う。(交通安全教室、防災訓練等)

【今年度の評価】  
・なわとびカードや持久走カードの活用により、子供たちの意欲を高めることができた。  
・体力テストの結果から、日頃のドッジボールの取り組みの成果が表れ投てき力が向上してきた。一方、走力・持久力については課題が残る。  
・学校管理下における事故発生件数が前年度同様多い。盛んなドッジボールによる突き指や骨折に加え、トラブルや悪ふざけによる事故も多数起きている。

【改善策】  
・子供たちの意欲維持、向上のためのなわとびカードや持久走カードは次年度も積極的に取り入れていく。  
・様々な運動能力向上と意欲向上のために、運動委員会主催の運動イベントを企画する。  
・ドッジボールによるけがを少しでも減らすために、ボールキャッチの仕方を伝え、練習させる。  
・こうするとこうなる、こうすれば大丈夫、という危険回避の指導を日常的に行う。

助け合う子

【児童の状況】  
・行儀やマナーが身に付いていない子がいる。  
・自分の気持ちを上手に伝えられなかったり、相手の気持ちを察することができなかったりして、トラブルにつながることもある。  
【達成目標】  
○相手の気持ちを考えて自分の思いを伝える。(個人)  
○相手を思いやり互いに声を掛け合って活動する。(小集団)  
○自分のよき友達のよさを生かし合いながら、力を合わせて取り組む。(集団)

【目標達成に向けての取り組み】  
・学活や行事などを通して、「かかわり合う力」や「チームワーク力」を育てる。  
・思いやりの心を大切に「話し方・聞き方」を指導する。  
・思いやりの心を育てるために、1・6年のペア活動や幼稚園・浜松特別支援学校との交流活動を取り入れる。  
・各学級で、小集団の活動を意識的に取り入れ、かかわる場を多く設定する。

【今年度の評価】  
・1・6年のペア活動や幼稚園・浜松特別支援学校との交流活動を通して思いやりの心を育てることができた。  
・学級・学年・学年団での活動や行事などを通して、「かかわり合う力」や「チームワーク力」を育てることができた。  
・思いやりの心を大切に「話し方・聞き方」の指導を十分に行うことができなかった。

【改善策】  
・思いやりの心を大切に「話し方・聞き方」の指導については、生徒指導の「生活のめあて」とタイアップして行う。(思いやり・言葉遣い)

学校関係者評価

・個別指導支援を充実するために、具体的に何ができてほしいかを明確にする必要がある。  
・テスト全分野で8割の到達度を目指すのは大変である。もっと特化して、例えば計算の分野で9割とれることを目標にして取り組めば、みんなが満足できる結果につながると思う。

改善策

・子供たちの個々の課題に合わせた、手立てが打てるように、客観的な評価をして事前に対策を打てるようにする。そのために、必要に応じてケース会議をする。また、本校に必要な能力が何か検討して、どの分野を伸ばしていくかを絞り込めるように校内研修等で検討していく。